

东京都

宇田川定子様

三事郵便
検閲済
齊藤

封

軍艦武蔵

宇田川定子

相成

新はらくて而も其の致しきもたが

仰而親はけしめ而も一日に表らざる而も其に

おまの事とて是も致しきもたが

私も元來が軍務に精勤致しきもたが

何をし而も安心下さし

時が柄種々と農事繁栄の事とおまの致し

ますは之も協力しき一生懸命に働らる下さし

云ふまでもなく今こそ日本臣民としてすべての

力を捧げざる時ですそしき時能心が如何に

変化しやうが變ずてしやまぬ必ず米英を變ず減

すとの信念を以て一事なく自分の仕事に励

む各々の責務に全力を盡すのが日本臣民の道

です私も此の氣持で働らるます

皆んちも充分健康に注意して働らいて下さい
姉さん達も皆さ、達者でせうね。たまには、お紙でも
出してやら様にと便りを出さしめて下さい
吾々の一番楽のーのは皆んちからの便りです
足姉、妹も少々はあひが皆んち忙かーいので便
の数も少い折があつたら、お紙をください
先日のお紙及同封の字彙届きました。お月難たり
では、お紙おきませーに

お紙おきませ

お紙おきませ

東京市

宇田川定子様

軍事郵便



封

軍艦武蔵

宇田川北三郎

前畧

存す中、本紙有難たう

而、両親、何れも、先中、一同、於者、お元氣の様に

すね、お元氣が、年務に、勵んで、居るから、安心、しなされ

先々の、便り、よ、依ると、ころ、お元氣、た、か、お元氣、安心、した

於る、之、派、ふ、ものが、出来、た、と思ふ、一、見、た、と思ふ、居る

お父様、お元氣、で、居る、事、おせう

ヨシ、姉、お元氣、お居り、ふ、で、せう、お元氣、お居る、く、お無沙汰

お元氣、お居る、が、お元氣、お居る、と、思ふ、事

大用、支、の、先、と、も、昨年、夏、以来、交通、も、な、つ、が

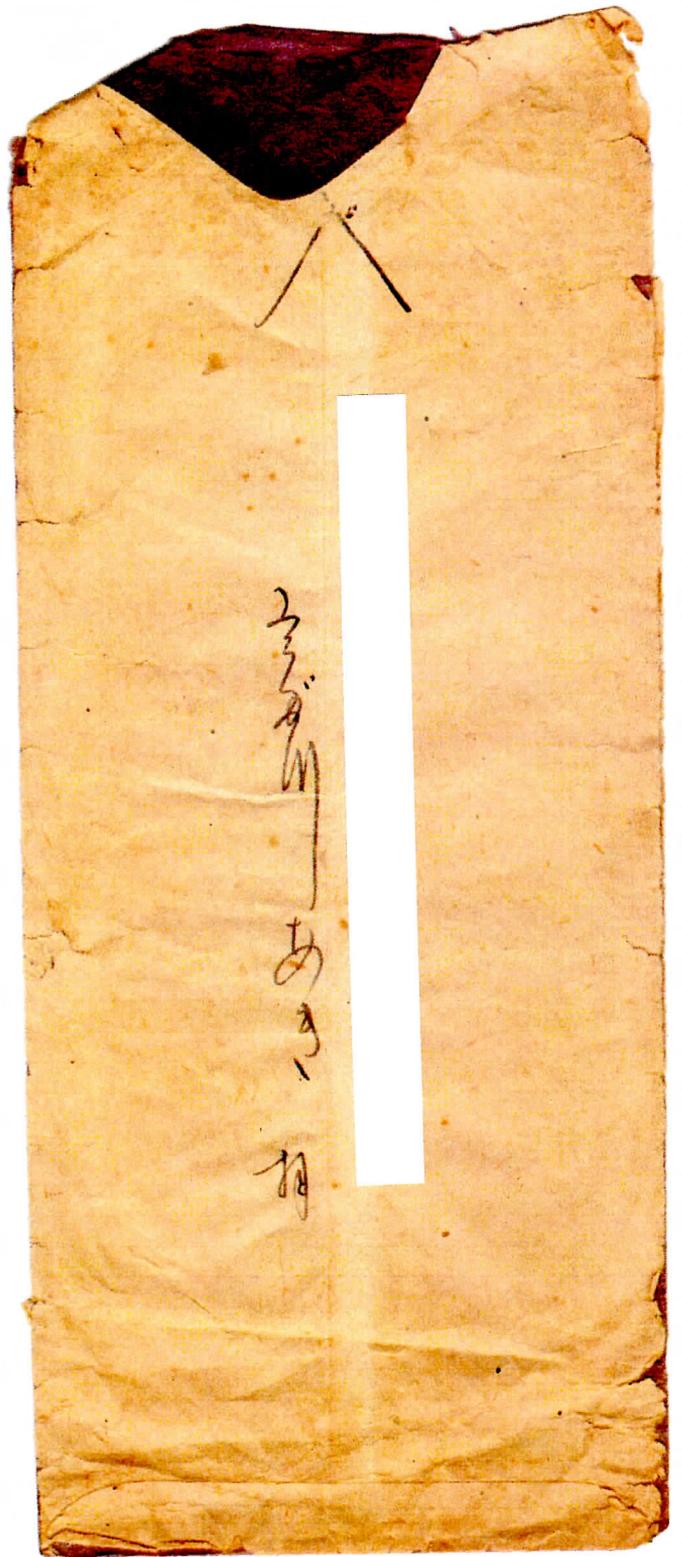
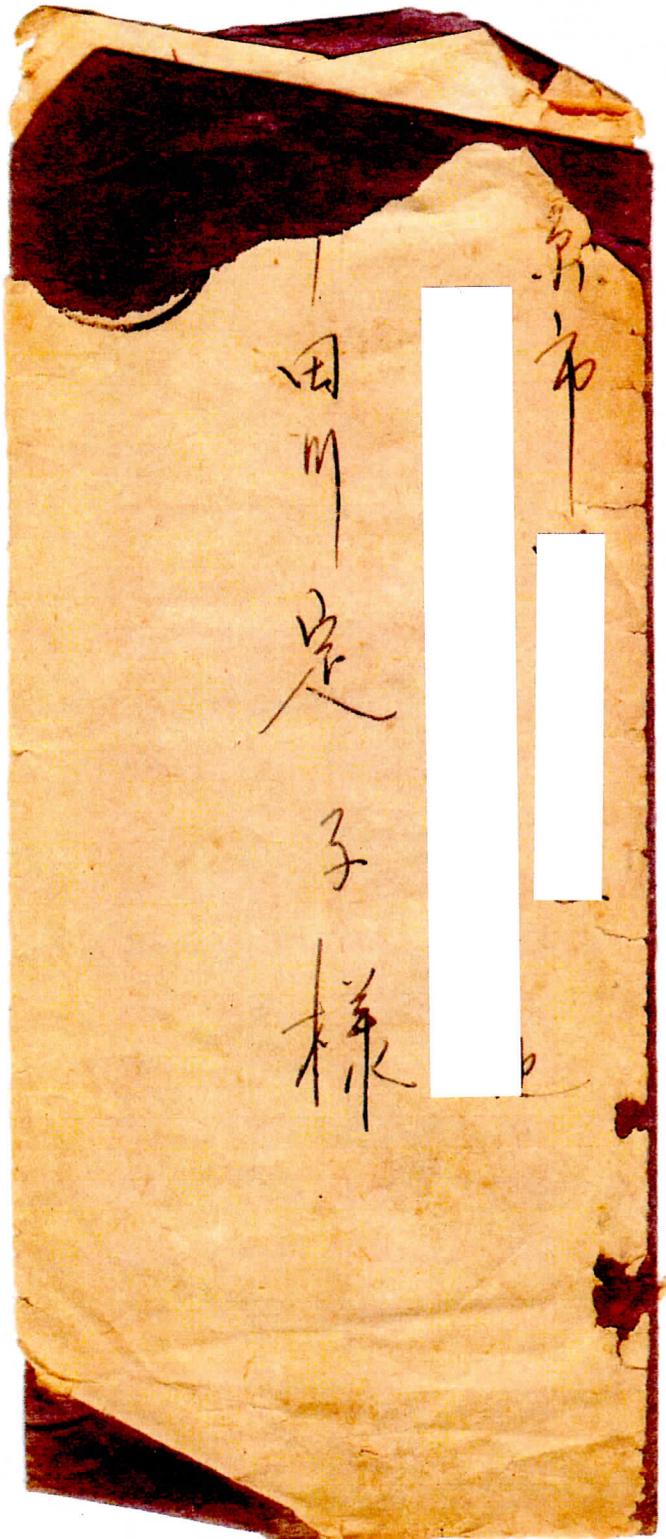
たま、には、便り、が、有る、か、ね、於、者、お元氣、お居る、事

お元氣、お居る、事、お元氣、お居る、事、お元氣、お居る、事

時を極忙が。いんらう許と不印に働そく水
ねら今同支那事表從軍記立早と賜つた
では紫粘に皇教

え
そま

是
と
殿



前略

お手紙有難う

相妻らずお元氣がお養育の様子

がたどりの事ですお休をちやりにして現下の若い女性として恥かしくなつてやうに益々努力すると共に老い行く父母に兄さんの分まで盡しやつてくれ

先日の平紙によろそだいぶん兄さんの事を心配してゐるやうだが決して心配なぞしないであつたは少しおとけた氣持で一筆書かせる

兄さんは小供の時からずいぶん表座な我が儘な人間であつたその為父母や兄妹にもすいぶん心配をなつてきた其の儘もせず海軍に入籍することになり今う日に及んでゐるが其の間青島島の夢も具すに過おしてしまつたうでは海軍に入つて早くもこの年

にならんとしむる其の間種々の樂しみを

若しむを絶てどうやらんうごはく昔の七七夜とし

て即事一らが出来るやうになつた是れが私の若い時

代の結實だ而しんう思へば若い時分にはもつと樂たのしみしく

暮くらして行けばよめらうと思ふ

それがまだ若い夢かも知れぬが而しんうでは少くとも

自分の任務を盡すの出来る道と通り行くとやうに

努力して行む

決して青春の夢をなすは見ても片ない兄さんの友達の申

には兄さんより年は若くても人音に結婚してたの

く文通をとりたりして生活して片なくもある

だが兄さんはそんな中には関心はもたないなんとも思ふ

て片ない俺は祖おの花婿だ俺の悪人は祖おだと

心にきめて樂たのしみしく軍務に全力を注いで行む

おと前も小供だ小供だと思ふを片るうらに年頃

になつてしまつたね父母もお前が早くついたなら
さぞ安心される事だらう早く安心させて老後を楽しく
送らせてあげようではないか

親は子供に對する責任と云ふもの、度々は一番の
心配されて居ると人の親は言ふが其れはほんとうの
事だと思ふ而し私達は其の笑に於ては良い兄弟
また姉を持つて非常—に安心—に居る父母もさぞ満足
されて居る事だせう

最近皆人なまより少—も優りかなんが皆人な事り
はなつだらうね若うたるやあつたらう足立人にもす
むらむらくれ老年期の一年は非常—に善化
が多いと言はれて居るが暫らくお會致さない
申—にすいぶん考へたるやと思ひます

是ももちやに—くれ
種々つまらぬ事—を書きたてたが足立人の

No 4

気が持たか少くも判つてくれたら満足だぞはまた

後便にて

時節柄巾飾もちやに誇張してくれ

きよん

足より

是子殿

拜復

御便有難く拜見致しませうと

皆様申渡りもふく申壯健に働いて居られる趣ふに依りの事とお喜び申上ます此の便りに依ると今度新しい家を新築するとの盡きありませうが実に結構な事と思ひます皆様相心當ふ影氣ややつて居られる事かうかいはれども私に非常な嬉しく思ひますが今時家を建てるときはふいと思ひませう物價は高く第一品物は無いしそれよりも今の様に物價の高い時には出来ざり金を貯へべき事でありませうその中には又好時期が必ず来ますよ

私も軍人として金もどい必要ありませんが物の由具ふふのを幸ひ出来得る極り貯金を致しん今月までに三百五十円ばかり貯金をしませうをよまあよと考へて後で失敗し

イカリ

No.

お前がよよく云つて下さい

あつ様々にやうと下さ小者れから保ち神より習書を送て下さいますたが今日有難く頂きますからおまえの宣教書と禮を云へ下さい

ではお禮、礼儀

三月十六日午後十一時五分

定る 殿

No.

イカリ

封

横濱局為付 三九三

林野 塚

早田川林三郎

東京散

早田川定子殿

軍事郵便

檢閱済

御手紙に難たう

お名を死でお養育のやうに

御手紙に難たうと思つて居る。僕も玉極

語健で早稲後に幼くぞおける故に母の心の極

我機益を急する時月日は刻々として過ぎ去り行き

やがて若い希望の妻が訪れて来るるやうにせう

如何に思つて居る申すに任せしめても人は自然

に觀化により妻は妻、社は社の味付けを

感ずるものだ特に君達のやうに若い人達には

今のながか大きいだらうと思ふ

お前もいつも大きな希望をもつて此の時局

に處へ若い日本の乙女として大りに意義

お名を死でお養育

父母もお名を死でお養育

時には父母の近況をわきまをきいて知らせ

ほいお前も家で働いて居るのだらうね

やがてお嫁に行かふやうな身だ

父母に仕へると共に兄と妹とを助けしつかり

働かすお前も早くお前の花嫁次女を見たいそ

て父母を安心させせやうと思つて居る末子の

おまゝがかたがけければ父母も安心されるやう

ならうやうにまだ若いのだからね

つまらぬやうな事を思ひたがではまた後便を

時折お前も働いて居るやうに

定子様

足し

祝
辭

瑞 江 戶 川 區 青 年 團
江 支 部

祝辭

海國日本、青年羨望、
海軍、今日宿望セラレシ
海軍ニ入団セラル、

宇田川秋三郎君ヲ

送ルニ際シ祝辭ヲ呈ス

吉來ヨリ制海權握ル國

光有リトシ、茲ニ度ニ海軍
ノ優劣強弱ニ依リテ國運
ノ盛衰、分岐点ナリ

幸ニ海國日本ハ世界各國、

羨望ノ優越ヲ保テシハ人

是次望一優越カヲ保ケシハ人
海軍ノ賜ト深ク感謝スル
モリテ有リマス

此処ニ入団セラル、宇田川秋三郎
君ハ夙ニ海軍思想心ニ富ミ
シ快男兒ナリ

君ハ団後ハ軍国多事ヲ祈
海国日本ノ為ニ意専心
奮勵セラレシ事ヲ希フ

終リニ終ミ、君ノ前途ヲ
祝禱シ併セテ武運長久
ヲ祈リ入団ノ祝辞トス

昭和十四年

此処ニ入団セラルル宇田川秋三郎
君ハ夙ニ海軍思想心ニ富ミ
シ快男ガ兒ナリ

君ハ団後ハ軍国多事ヲ
海国日本ノ為ニ意専心
奮闘セラレシ事ヲ希フ

終リニ終ミ君ノ前途ヲ
祝禱シ併セテ武運長久
ヲ祈リ入団ノ祝辞トス

昭和十四年

六月九日

弘治川三吉青年団
瑞弘支部

祝

辭

中部青年團

祝辭

行く春に石残りを惜しみつゝ
此處に新縁より夏を迎へ早や
緋絶り大空より一角にもくく
と浮ぶ夏や雲人心は海へ海へ
と石北海水にしへて鍛へる
健康にスズン今我が海り巨
城は洋々たる大海に黒煙を
吐き洋上の黒潮を制壓し
戦艦の艦砲は磨きに磨か
れ我が艦隊出でさしへば戦
は止まらずの對機は是勢に威
風堂々と黒潮の勢を
縫ひて爆進する有様は恰も

我が同胞一億の大行進の
要である。陸に海に未曾
有り大飛躍發展する日本
の陸には絶大なる障害の
累累として居る。有りませ
英租界問題の檢問檢策
と言ひ日本の行動は必全的
な作動であり所謂長斯
抗日の根をなやす所以で
有り長斯建設百年内を
目指して進むには戦争の
第一の原動力である。金も
必要性の益々強く感ぜら
れるのが有りませ。斯う如き
動亂の世上にありて今日此

處に目出度く我が不要を

所の宇田川秋三郎君を

横須賀海兵團に入團致

披小海の強者祖國の柱

石と成んは誠に國家の爲

同慶に想へまへん田願致し

ますれば君の作年六月

隊兵検査の結果身体健全

と益良夫と立證せられ

海軍第二期兵にしよう旨

迄延任し君の志を入團

後にかたすし軍紀に従ふ

就中陸海軍に賜うたる

勅諭と百讀し軍人

就中、陸海軍に賜りたる
勅諭を百讀し、軍人
精神を緘り之を行せんは
唯一つ、誠なり、宜敷し
左言を充介理解し、
階下、御陵殿に添へ奉
らん事を希し
此處に團員を代表し
中心より祝辭を述べし

昭和十四年六月二十日

中野分團長

祝辭

一之江町會

祝詞

教養
予變以來茲二年我皇軍ハ

至ル所ニ頑敵ヲ擊破シ堅壘ヲ
拔キ未曾有ノ戰跡ヲ收メテ

國威ヲ海外ニ輝カセタシテ有ラス

今ヤ抗日蔣將政權ハ漸次

衰亡ニ遁入僅カニ其ノ餘喘ヲ

保ツノミトナクテ有リマスガ彼ヲ

繞ル茅之國ノ策勅、續ク限リ

予變ノ前途又豫斷ラ

許サナクテ有リマシテ相有

長期ニ亘ル世見悟ト準備

要スル下トハ申ス迄モ有リマセ

更ニ最近外蒙玉境ニ於テ

衝突事仲、天津租界内題

等々我玉際案係ノ前途

ニ今ノ憂多ク多ク端ヲ

感ゼニル、トテ有リマシテ我モ

鏡ハニ真者、一文緊張

ヲ要スルト同時トシテ我が國軍ニ

ヲ要スルト同時ニ我が國軍ニ

期待スル所極ニテ大ナルノ

有リテ痛感スル次第ナリト

此ノ時ニ當リ女所會ヲ

宇田川秋三郎ノ如キ勇力士ノ

光輝アル人團ヲ送ルコトヲ得

テハ我等ノ最モ喜々強クスル

所ニテ有リマス

希クモ健康ニ留意シテ意志心

軍人タルノ本分ヲ遂リテ今以

聖戰目的貫遂ノ為メ志奮勵

アラシメテテ志願ニ致シマス

所 有リマス

希ク健康ニ留意シ一意苦心

軍人タルノ本分ヲ遂リ今次

聖戰目的貫遂ノ為メ奮闘

アラシトテ快靦ニ致シマス

茲ニ本町会ヲ代表シ衷心ヨリ

貴君ノ快進ヲ祝シ併セテ武運ノ

長久ナラシフトテ祈リ 敬送ノ

詞ト致シマス

昭和四年六月廿九日

一之江町会

代表 露木清一

東京部

宇田川新太郎様方
定子様

軍事郵便

檢閲



横須賀局集封了
九廿九

村中御座

宇田川新太郎

東京市

宇田川兼吉様



池田隆介

五月廿日